多摩ボランティアセンターの活動の概要

多摩ボランティアセンター2018年度活動の総括

多摩ボランティアセンター長　橋本　到

2018年度、多摩ボランティアセンターでは、2009年創設以来の二つの方針――「学生スタッフによる自律的な企画運営の推奨」「地域との絆の強化」のもと、数多くの成果をあげることができました。イベント数は30と、昨年とほぼ同数ですが、ボランティアの実行を中心的に担う学生スタッフ数は、倍増し51名に達しました。前年度の学生スタッフの努力、ボランティア活動への関心の広がりが、増加の要因と考えられます。

多摩におけるボランティア活動は、大きく分けて、大学の立地する相原の地域支援と、遠隔地の被災地支援（気仙沼、熊本）に分かれます。

センターの柱の一つである「地域（相原）との絆の強化」は、着実にその根を深く、広く張り続けています。学生企画による住民団体交流会である「あいはら想いの竹カフェ」は、2017年度から始まり、相原地区協議会から補助金をいただき大学連携事業として実施を継続しています。年間3回、多くの来場者をお迎えし、親睦を深めるゲームやトークイベントでは、司会・進行に学生が工夫を凝らし、学生自らが様々な形で相原の今を知り、新たな活動に向かう契機ともなっています。本年度の第3回目（19年3月）では、認知症カフェを開いている「特別養護老人ホーム椿」に場所を移し、その協力を得ながら、「理想の最期の迎え方」というともすればシリアスな話題を、和気藹々と語り合う場をもうけ好評を博しました。地域活性化に関わる他の活動としては、「相原にぎわい創生事業「竹あかりの街「相原」」が主催する、相原に自生する竹をメインモチーフにした試みへの参加があります。周辺大学の学生と協働し、19年3月にJR東日本相原駅西口にて、自らの製作した竹のオブジェに明かりを灯しました。相原での活動は多岐に及び、郷土の詩人八木重吉記念館の墓地清掃、小中一貫校町田市立ゆくのき学園の児童との交流、介護老人福祉施設ヴィラ町田への慰問・傾聴、あいはらほうとうコンサート（相原住民福祉協議会）への参加など以前から続けられている活動の他、新たなものとしては、堺市民センター、子どもセンターぱお（いずれも相原）や青少年施設「ひなた村」（本町田）での子ども支援、特別養護老人ホーム第二清風園（薬師台）訪問や東京医科大学八王子医療センターでの「緊急医療救護所訓練」参加など、学生による意欲的な取り組みが相次ぎました。また、これに加えて、町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ」（町田全域）では、地域ボランティアの交流の輪に積極的にかかわりました。

被災地支援では、それぞれ東日本大震災、熊本地震の被災地である、宮城県気仙沼市大谷海岸（2015年から継続）と熊本県益城町木山仮設団地で活動を行いました（2016年から継

続）。いずれにおいても、被災から時間がたち、復興が進む中、所謂瓦礫撤去のような被災地支援でなく、コミュニティー支援という色彩が強くなっています。

気仙沼市大谷海岸地区は、被災後住民の感情や防潮堤工事に対する考えなどが必ずしも一つにならないなか、様々な努力や工夫によってこれを克服し、広く注目を集めていることを、現地の三浦友幸様（一般社団法人プロジェクトリアス代表）からお話ししていただき、貴重な学びとすることができました。大谷海岸の花火祭りは、鎮魂とコミュニティーの融和を願って開かれますが、「チーム気仙沼でつながら騎士（ナイト）」は、9月9日に行われたこの祭りの舞台や椅子席の設営、車での入場者の整理、打ち上げ花火の後片付けのお手伝いなどをさせていただきました。今回で四年目となる、若い学生たちのボランティア活動は喜ばれ、Knet気仙沼ケーブルネットの取材も受けました。

「チームたまもん」は、一次隊が8月20日から23日、二次隊が2月16日から18日にかけて熊本県益城町で支援活動を行いました。併せて、現地の動向を知るために、町の社会福祉協議会や木山団地内の自治会長さんから話をうかがい、被災後今なお残る問題と今後の活動の展開について考えました。熊本保健科学大学の学生と協働しての子ども支援では、仮設団地内の集会所で工夫を凝らして子どもたちと遊び、その模様の一部が読売新聞熊本版に紹介されました。仮設の子供たちの多くは両親が働きに出ている間、自分たちだけで遊びますが、遊具も遊び場にも十分恵まれているというわけではありません。「チームたまもん」の取り組みは、一義的にはそうした子供たちに手を差し伸べることですが、それにとどまらず、来訪した大学生と楽しく遊んだ子どもたちが、帰宅してその思いを持ち帰り、ご家庭に伝えてくれれば、そのことがまた現地への励ましになるのだろうとも考えられます。

熊本支援は、別のプロジェクトとも連動していて、被災地と相原を結びつけ、寄り添いの絆をより太くし、励ましを進めています。益城町のお茶屋の富澤さんと相原のカトウファームさん、ゆめ工房さんとのコラボで開発した「益城町を応援しなく茶クッキー」ならびに「同プリン」を、学内はもとより、相原地区でのボランティア活動である竹カフェ、堺市民センター祭、町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ」などで販売し、ささやかながらその収益を現地に寄付させていただいています。また、「はるかのひまわりプロジェクト」では、益城の移動図書館からいただいたひまわりの種――もとは阪神淡路大震災の犠牲となったはるかちゃんの育てていたもの――を法政多摩キャンパス内に植えています。昨年度から継続されているプロジェクトですが、これも寄り添いの輪を広げようとするものです。

ボランティア活動は私的なものではなく、多数の幸せに関わる営みですから、活動終了で終わらずに、それを広く発表し、手を携えるべく活動の輪を広げることが大切で、それがさらに大きな支援の力を生みます。学内では、10月に「夏の被災地活動報告会」、12月に「地域にスマイルを届けよう活動助成金」報告会が行われ、様々な学内ボランティア団体の情報交換や啓発につながりました。学外では、2月にイオンモール多摩平で催された「多摩地区の大学と地域によるネットワーク」主催の「被災地と多摩地域の架け橋～大学生はなぜ、被災地に通い続けるのか？」に参加し、中央、明星、実践女子、首都大学東京の各大学の学生

とともに、本学の気仙沼チームの学生代表が登壇し、活動の模様をプレゼンしました。熊本チームも支援のクッキー販売を行いました。来場者は二日で 640 人、他大学のプレゼンや会場からの活発な反応は、大きな励み、刺激になりました。また、3 月の学生活動報告会「がくまち Expo」（主催町田市）でも、ポスターブースにて来場者と交流しました。

2018 年度は、このように、地域との交流、被災地支援で、数々の活動を展開し、実りある形で終了することができました。様々な問題をクリアーしながら、活動に生き生きと取り組み、多くの学びを得た学生たちの真摯な姿勢、奮闘を賞し、その成果を一緒に喜びたいと思います。一方、職員の皆さんにおいては、昨年から大幅にスタッフが入れ替わったなかで、学生との連絡や見守り、各種資料の作成に携わる一方、ボランティアセンターの活動のもう一つの柱である「学生スタッフ」による「自律的な企画運営」が確実に遂行できるよう腐心されました。その労に感謝したいと思います。

最後に、活動の財源について触れると、被災地支援では、災害発生から時間が経つと外部の助成金が減少しがちなうえに、活動の場が遠隔地であるため、費用のやりくりに苦労することになります。そうしたなかで、気仙沼支援、熊本支援は、それぞれ、ヤフー基金、日本財団（ガクボ）から、そして、両支援とも本学の「地域にスマイルを届けよう活動助成金」から、助成をいただくことができました。記して深く感謝の意を表する次第です。ボランティアは、社会の変動につれて変化すべきものですし、現場で発見した新たな課題にも取り組まなければなりません。次年度においても、引き続き、本年の成果を継承、発展させていきたいと考えております。

2018年度　ボランティア支援プロジェクト　イベントカレンダー

月　日	曜　日	イベント・講座・訪問先	概　要	参加者数
4月11日-13日	水-金	益城町を応援しなくっ茶！クッキー販売＆パネル展	コラボクッキーの販売とチームたまモンの活動パネル展示	5名
5月20日	日	第二清風園イベント支援	第二清風園の100周年イベントの運営支援	7名
5月23日-10月9日		はるかのひまわり絆プロジェクトIN多摩キャンパス	被災地支援の一環として、多摩キャンパス正門横で「はるかのひまわり」を育成	26名
5月30日・6月27日	水・水	八木重吉記念館清掃ボランティア	八木重吉記念館周辺の清掃活動	9名
6月3日	日	町田市生涯学習センター利用者交流会	町田市生涯学習センターの第5回利用者交流会	7名
6月23日	土	―相原11地区協議会大学連携事業― 第4回地域交流会「竹カフェ」	Slow World Cafeにて、相原地域の方々との交流会	13名
6月30日	土	ヴィラ町田傾聴ボランティア＆Voice of Winds演奏会	吹奏楽サークルVoice of Windsによる演奏と傾聴ボランティア	26名
6月30日-7月1日	土-日	堺市民センター祭り	コラボクッキーの販売	12名
7月6日	金	町田市立ゆくのき学園大戸小学校児童来訪	ゆくのき学園大戸小学校の児童らが授業の一環でボランティアセンターに来室	1名
8月5日	日	ヴィラ町田夏祭りボランティア	ヴィラ町田夏祭りの運営補助	14名
8月20日-8月23日	月-木	熊本被災地支援活動（第1次隊）	益城町仮設団地での子ども遊び支援	6名
9月8日-9月9日	土-日	宮城県被災地ボランティア ～気仙沼でつながらNIGHT～	宮城県気仙沼でのお祭り支援やスタディツアー	8名
10月11日	木	夏の被災地ボランティア活動報告会	気仙沼でつながら騎士、チームたまモンによる被災地ボランティア活動報告会	21名
10月20日	土	第71回自主法政祭多摩地区	コラボクッキーの販売とチームたまモンの活動パネル展示	7名
10月21日	日	ひなた村子どもチャレンジフェスティバル	イベント運営補助、および子ども向けの出し物を主催	6名
10月22日・ 11月19日	月・月	八木重吉記念館清掃ボランティア	八木重吉記念館周辺の清掃活動	9名
10月28日	日	第二清風園ハロウィンフェスティバル	第二清風園ハロウィン祭りに参加	15名
12月2日	日	第12回市民協働フェスティバル　まちカフェ！	町田市内の活動団体が集い、活動の紹介展示やワークショップを行い交流を深めるイベントに参加	12名
12月8日	土	―相原11地区協議会大学連携事業― 第5回地域交流会「竹カフェ」	Slow World Cafeにて、相原地域の方々との交流会	11名
12月14日	金	八木重吉記念館清掃ボランティア	八木重吉記念館周辺の清掃活動	4名
12月21日	金	学生ボランティア2018年度活動報告会	多摩キャンパス学生による活動報告会	11名
2月3日	日	東京医科大学八王子医療センター緊急医療救護所訓練	八王子医療センターでの医療対応訓練	10名
2月6日-2月10日	水-日	第5回大学生ボランティア写真展＆イベント	イオンモール多摩平の森にて、他大学と合同でボランティア活動を報告、展示	11名
2月16日-2月18日	土-月	熊本被災地支援活動（第2次隊）	益城町仮設団地での子ども遊び支援	5名
3月3日	日	たまぴよ～つくろう!!ひなまつり～	子どもセンターぱおにて親子向け企画	5名
3月8日	金	あいはらほうとう＆コンサート	相原地域の交流企画に参加	4名
3月12日	火	―相原11地区協議会大学連携事業― 第6回地域交流会「竹カフェ　椿」	相原地区の方々との交流会	10名
3月20日	水	学生活動報告会【ガクマチEXPO】	町田・相模原で活動する大学学生団体の活動報告会	4名
3月23日	土	ゆめ工房まつり	ゆめ工房が主催するイベントの運営補助	2名
3月30日	土	まちだ○ごと大作戦-竹あかりの街あいはら-	竹灯籠をはじめとする竹のオブジェを制作し、点灯式を行う	6名

講師、協力先	備　考
町田ゆめ工房・お茶の富澤。・Slow World Café	学内にて、学生スタッフ考案のゆめ工房（相原町）とお茶の富澤。（益城町）コラボ「益城町を応援しなくっ茶！クッキー」の販売と、チームたまモンによる熊本支援活動のパネル展示を行った。
社会福祉法人賛育会第二清風園	町田市にある複合型福祉施設、社会福祉法人賛育会第二清風園にて開催された100周年記念フェスタの運営支援を行った。
はるかのひまわり絆プロジェクト・法政大学美術研究会	昨年同様、命の尊さや復興の象徴として広まった「はるかのひまわり絆プロジェクト」に賛同し、キャンパス内にてひまわりを育成、種を収穫した。
八木重吉記念館	相原出身の詩人、八木重吉さんの生家である八木重吉記念館周辺の清掃を行った。
町田市生涯学習センター	町田市生涯学習センターの利用者交流会にて、学生スタッフが分科会「明日から使える！コミュニケーション法」を運営。利用者の方たちと交流をした。
Slow World Café・スターキッズ・地域系サークル「ふなで」・町田ゆめ工房	相原地域の方々をお招きした交流会。相原地区にて高齢者や子どもの居場所づくりを行っている「スターキッズ」と本学サークル「ふなで」の連携を紹介するとともに、グループワークを行った。
介護老人福祉施設ヴィラ町田	吹奏楽サークルVoice of Windsのメンバー21名による演奏会、学生ボランティア5名による傾聴ボランティアを行った。
堺市民センター・町田ゆめ工房・お茶の富澤。	相原駅近くにある堺市民センターにて、「益城町を応援しなくっ茶！クッキー」を販売。熊本で頂いた、命の尊さや復興の象徴である「はるかのひまわり絆プロジェクト」のひまわりの種も配布した。
町田市立ゆくのき学園大戸小学校	ゆくのき学園大戸小学校の児童ら5名が、「まちをたんけん　大はっけん」という授業の一環で法政大学に来訪。ボランティアセンターにて学生スタッフが概要説明を行い、キャンパス内を案内した。
介護老人福祉施設ヴィラ町田	ヴィラ町田夏祭りにて、運営補助や利用者の方との交流等を行った。
熊本YMCA・熊本保健科学大学・熊本子育てネットワーク	仮設団地内で、子ども支援（流しそうめん・バルーンアート・スライム作り）を行い、現地の社会福祉協議会の方にお話を伺い、見学をした。
本吉町内の自治会	大谷海岸花火まつりの舞台の設営、片付け等の運営補助を行った。また、語り部の方にお話を伺い、被災跡地を見学した。
	被災地支援を行っている学生スタッフ「チーム気仙沼でつながら騎士」「チームたまモン」が夏の活動について報告し、意見交換を行った。
町田ゆめ工房・お茶の富澤。	多摩キャンパスの学園祭にて、「益城町を応援しなくっ茶！クッキー」の販売と、チームたまモンの活動紹介パネル展示を行った。
町田市少年少女発明クラブ	町田市政60周年を記念したイベントに参加。メインイベントの運営補助と、子どもを対象にした「しっぽとり」ゲームを考案、実施した。
八木重吉記念館	相原出身の詩人、八木重吉さんの生家である八木重吉記念館周辺の清掃を行った。
社会福祉法人賛育会第二清風園	町田市にある複合型福祉施設、社会福祉法人賛育会第二清風園にて開催されたハロウィン祭りの運営支援を行った。
町田市市民部市民協働推進課・町田ゆめ工房・お茶の富澤。	学生スタッフが考案した益城町産茶葉×相原名産品のコラボ商品「かぶせ茶プリン」「益城町を応援しなくっ茶！クッキー」の販売を行い、子ども向けのワークショップを開催した。
Slow World Café・パンの木	相原地域の方々をお招きした交流会。「貿易ゲーム」という経済の仕組みを疑似体験できるワークショップを行い、学生と地域の交流を深めた。
八木重吉記念館	相原出身の詩人、八木重吉さんの生家である八木重吉記念館周辺の清掃を行った。
	多摩キャンパスの学生が、この一年間の自分たちのボランティア活動について報告した。
八王子医療センター・地域交流センター	被災地で活動する「チーム気仙沼でつながら騎士」「チームたまモン」のメンバーを中心に、八王子医療センターでの医療対応訓練に参加した。
イオンモール多摩平の森・多摩地区5大学・日野市社会福祉協議会・日野市役所・東京ボランティア・市民活動センター	多摩地区の大学・行政とともに被災地ボランティアに関する報告会とパネル展示を行った。「チームたまモン」は物産展でクッキーを販売し、「チーム気仙沼でつながら騎士」は活動報告会に参加した。
熊本YMCA・熊本保健科学大学・熊本子育てネットワーク	仮設団地内で、子ども支援（団子・たこ焼き・スーパーボール作り）を行い、現地の自治会長・社会福祉協議会の方に、被災地の現状についてのお話を伺った。
子どもセンターぱお	町田市にある子どもセンターぱおにて、学生スタッフ考案の親子参加型の工作企画を開催。紙コップを用いたひな人形作りを行った。
あいはら住民福祉協議会・町田市社会福祉協議会・大地沢青少年センター	「相原地区高齢者支援対策事業」として開催されている「あいはらほうとう＆コンサート」イベントに参加し、会場準備や受付業務を行った。
特別養護老人ホーム椿・明月堂	相原地域の方々をお招きした交流会。特別養護老人ホーム椿で開催されている認知症カフェ「カフェつばき」と協働で行い、「理想の最期の迎え方」をテーマにゲームを実施した。
町田市生涯学習センター・桜美林・相模女子・サレジオ高専・さがまち学生Club・大学コンソーシアム八王子	町田・相模原で活動する大学学生団体がパネルディスカッション、ポスターブースセッションを通じて、自分たちの活動をPRした。
町田ゆめ工房	「益城町を応援しなくっ茶！クッキー」の製造でお世話になっている町田ゆめ工房の主催イベントに参加。運営補助や利用者の方の見守りを行った。
さがまちコンソーシアム・相原にぎわい創生プロジェクト・東京家政学院大・多摩美術大・東京造形大・地域交流センター	相原駅西口駅前広場に、他大学とともに竹灯籠を作成した。点灯式では、学生スタッフが司会を担当し、学生代表として挨拶を行った。

①　益城町を応援しなくっ茶！クッキー販売＆パネル展

日時：2018 年 4 月 11 日（水）～ 4 月 13 日（金）
場所：多摩キャンパス EGG DOME 2 階　Slow World café、6 号館食堂

概要：

1．内容

学生スタッフ熊本被災地支援「チームたまモン」第二弾の企画・提案で完成した、益城町の「お茶の富澤」さんと相原町の「ゆめ工房」さんとのコラボスイーツ、「益城町を応援しなくっ茶！クッキー」販売を行った。当日は熊本県での被災地ボランティア活動パネルを展示。地域の方々にもお越しいただき、3 日間で 120 個を完売した。

この活動は読売新聞より取材を受け、4 月 13 日（金）付の多摩版に掲載された。

2．参加者数

5 名

3．背景・目的

・学生が主導して、被災地と相原地域を結ぶ。
・熊本の状況を多くの人に知ってもらう。

4．参加者の感想

「とてもかわいく包装がしてあってびっくりしました！ 被災地支援とはいえ、きちんと商品として売れるものでないと、人に買ってもらうのは難しいのだなと気づくことができました。このクッキーを買うことで、熊本地震を思い出してもらえたら嬉しいです。」（社会学部 3 年　田野崎友里）

「なかなか思い通りにいかないことも多く、自分にとって良い経験になりました。」（現代福祉学部 2 年　富所美羽）

「無事 120 個完売して安心しました。このクッキーが熊本の事を思い出すきっかけとなれば嬉しいです。」（現代福祉学部 2 年　橋本空）

クッキーのラベルは、桜美林大学の
坂田明さんにデザインしていただきました

たくさんの方にお買い上げいただきました

②　第二清風園イベント支援

日時：2018 年 5 月 20 日（日）　13：00〜16：30
場所：社会福祉法人賛育会第二清風園

概要：

１．内容

町田市にある複合型福祉施設、社会福祉法人賛育会第二清風園内にて、100 周年記念フェスタの開催イベントのお手伝いをさせて頂いた。

学生たちは、イス並べや利用者・地域の方のご案内、話し相手を主に担当し、イベントの補助スタッフを行った。

２．参加者数

７名

３．背景・目的

・介護老人福祉施設でのボランティアを体験し、関心を深めてもらう。
・自身の特技をいかしたボランティア活動を行う。

４．参加者の感想

「１年生は法人の雰囲気等がわかったと思うので、今後も継続的に参加してくれるとありがたいです。自分から仕事を見つけるなど、テキパキと動いてくれていたのが印象的でした。」（現代福祉学部３年　千田佳奈）

「自分より小さい子供を相手にすることがしばらくなかったので、楽しく、また勉強になりました。施設の方も優しく指示を出してくださり、良い雰囲気の中でお手伝いさせていただきました。是非また参加したいです。」（社会学部１年　小平奈美）

「初めてのボランティアで大変そうなイメージがありました。しかし、思っているより取り組みやすくて楽しいことだとイメージが変わりました。今回ボランティアをやっているという感覚より、自分を楽しみながらお手伝いをしている感覚でした。もっと参加したいです。具体的に指示をしてもらうのを待たず、もっと動けたら良かったと思います。」（社会学部１年　梶原綾乃）

実りある活動ができました

③　はるかのひまわり絆プロジェクト IN 多摩キャンパス

日時：2018 年 5 月 23 日（水）～ 10 月 9 日（火）
場所：法政大学多摩キャンパス正門横

概要：

１．内容

阪神大震災由来のひまわりの種「はるかのひまわり」を育て、命の尊さや被災地復興について考える、「はるかのひまわり絆プロジェクト」に参加。多摩キャンパスで育成した。無事開花し、多くの種を収穫することができた。収穫した種は、2/9（土）の第 5 回大学生ボランティア写真展&イベントにて、「益城町を応援しなくっ茶！クッキー」購入者に配付した。

２．参加者数

日程	参加者数	日程	参加者数
5 月 23 日（水）	8 名	7 月 11 日（水）	3 名
5 月 30 日（水）	6 名	10 月 9 日（火）	3 人
6 月 8 日（金）	6 名		

３．背景・目的

・被災地域と連動したボランティア企画の実施。
・復興を願う象徴であるひまわりをキャンパス内に咲かせ、震災や命の尊さについて考える機会を提供する。

４．参加者の感想

(5/23)

「熊本プロジェクトが主となり活動を行っていたが、中にはわざわざ参加してくれたボランティアセンターの方もおり、とても助かりました。今後はプロジェクト関係なく多くの方にも参加してほしいと思います。」（経済学部 1 年　小森滉太）

「チームたまモンの企画の一つとして、取り組ませていただいているひまわりの種まきですが、たまモン以外のボランティアセンターの方が参加してくださったことがとてもうれしかったです。」（経済学部 1 年　石井彰吾）

「最後までできませんでしたが、久しぶり土を掘るなどの作業ができて楽しかった。時間がある時また参加したい。」（社会学部 1 年　豊満祐希）

「土いじりは中学生以来だったので楽しかったです。水曜日の午前中は空いているのでまた参加したいです」（現代福祉学部 1 年　清水一希）

「チームたまモンだけでなく、他の学生スタッフとも一緒に活動ができ嬉しく思います。発芽するのが楽しみです！」（現代福祉学部 2 年　富所美羽）

(6/8)

「ボランティアを兼ねてひまわりを育てることができるのでリフレッシュにもなり、楽しかったです。これから成長していくひまわりを見るのが楽しみです。梅雨入りしたのに今日は晴れて良かったです。」（現代福祉学部 2 年　橋本空）

「思ったより多くのひまわりが芽を出していてうれしかった。今日植え替えを行ったので、今後の成長がとても楽し

みです。」（経済学部１年　石井彰吾）

「汗水流し、とてもやりがいのある活動でした。早くひまわりが咲き、多くの人にもこのプロジェクトを知ってもらいたいと思います。」（経済学部１年　小森滉太）

「これから咲くだろうひまわりの芽を植えるのは非常に心おどる作業だった。これからも手入れを欠かさずにしっかりと咲かせたい。」（社会学部３年　鈴木史哉）

（7/11）

「今日は最初日差しが照り付けて暑かったですが、途中から雨が降り出しやりやすかったです。ひまわりの生育が良い所は、雑草の生育も良く抜くのが余計に大変でした。また、生えてくると思うと辛いですが、とりあえず水やりが楽になって良かったです。良かったです。「（現代福祉学部１年　海老沢真由）

「雑草取りは正直大変でしたが、週に１回でもやっておけば楽になったと思う。日々の積み重ねの大切さを知った。」（社会学部１年　秋山颯人）

「雑草なのかひまわりなのか分からないくらい雑草が生えててびっくりしました。定期的に抜いたほうがいいかもしれません。間引きのタイミングも難しいですね。支柱で安定してくれたら嬉しいです。成長を願ってます。」（現代福祉学部２年　橋本空）

（活動総括）

「昨年度から続けている活動なので、本年度も無事に咲いて嬉しかったです。ボランティア活動をしていない学生から『今年も咲いたね！』と声をかけてもらったりと、輪を広げるという活動の意義を実感することができました。」（現代福祉学部２年　富所美羽）

土を耕し、種まきの準備（5/23）

ポットに種まき（5/30）

ポットで生育したものを植え替え（6/8）

草むしりを行いました（7/11）

無事開花しました（8/21）

種を収穫し、片づけました（10/9）

④　八木重吉記念館清掃ボランティア

日時：2018 年 5 月 30 日（水）13：00〜13：30 / 6 月 27 日（水）13：00〜13：30 / 10 月 22 日（月）13：00〜13：30
11 月 19 日（月）13：00〜13：30 / 12 月 14 日（金）13：00〜13：30
場所：八木重吉記念館

概要：

１．内容

相原出身の詩人、八木重吉さんの生家である八木重吉記念館周辺の清掃を行った。参加学生はゴミ拾い、除草作業を行い、終了後は八木重吉さんご一家の墓前にて合掌した。

２．参加者数

日程	参加者数	日程	参加者数
5 月 30 日（水）	4 名	11 月 19 日（月）	5 名
6 月 27 日（水）	5 名	12 月 14 日（金）	4 名
10 月 22 日（月）	4 名		

３．背景・目的

・大学周辺にゆかりのある文化人の足跡を訪ね、継続的なボランティア活動につなげる。
・相原地域の文化的、歴史的に重要な史跡の環境整備。

４．参加者の感想

「石の下にも落ち葉がつまっていたので、意外と大変だった。今度は表面だけではなく下まできれいにしたい。清掃することで、八木さんを輝かせ、現代での存在感を保てると思った。次は記念館や本人について知った上で参加したい。」（社会学部 1 年　梶原綾乃）

「昼休みに催されるという事で非常に気軽に参加できた。このような気軽に行えるボランティア活動があればより多くの人に参加してもらえるのではないかと思った。」（社会学部 3 年　鈴木史哉）

「短い時間の中でわずかなことしかできませんでしたが、およそ袋 1 個分の雑草をぬいたり、花を植えたりして、終わった時には僅かな達成感や少しでも人の役にたてたことへの喜びを感じることができました。ありがとうございました。」（現代福祉学部 1 年　根本佳奈）

「このボランティアに参加して、相原に八木重吉という詩人がいたことを知りました。こんな近くに記念館があるとは知らなかったので新たな発見でした。お墓がきれいになると心もすがすがしい気分になるので参加して良かったです。」（現代福祉学部 1 年　小野汐梨）

「空いている時間に清掃のお手伝いが出来て嬉しかったです。ぜひまた参加させていただきたいと思いました！ 気軽に参加できるボランティア活動はとてもありがたいです。」（現代福祉学部 1 年　安藤千沙）

参加学生による清掃活動（5/30）

多くの学生が参加しました（6/27）

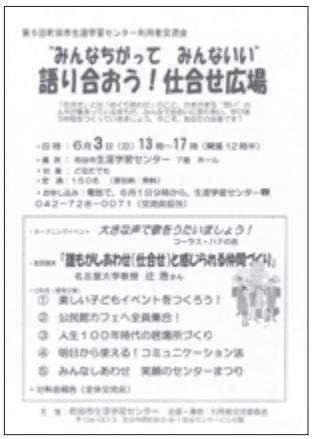
命日の茶の花忌（10/26）前に花を植えました（10/22）

沢山の落葉がありました（11/19）

今後も継続して実施する予定です（12/14）

⑤　町田市生涯学習センター利用者交流会

日時：2018 年 6 月 3 日（日）13：00〜17：00
場所：町田市生涯学習センター



概要：

1．内容

町田市生涯学習センターの利用者交流会にて、学生スタッフが分科会「明日から使える！コミュニケーション法」を企画・運営。利用者の方たちと交流した。

2．参加者数

7 名

3．背景・目的

・町田市で開催されるイベントに参加することによって、学生と地域の交流を目指す。
・世代間交流や世代間コミュニケーションについて考える。

4．参加者の感想

「色々、不安なこともありましたが、無事に終えられて良かったです。初めて会った地域の方も多く、楽しみながら交流できたので嬉しかったです。」（現代福祉学部 3 年　鈴木琴音　【企画担当】）

「予定よりも多くの方にご参加いただき、楽しんでいただけて嬉しかったです。皆さんとの交流は私にとってもとても勉強になったので、今後に生かしたいと思います。」（現代福祉学部 2 年　橋本空　【企画担当】）

「最初はかなり緊張したが、用意していただいたゲームやアイスブレイクが面白くて緊張がやわらぎ、楽しく会話することができた。来て良かったと思った。」（現代福祉学部 1 年　宮下なつ）

「自分自身も楽しみながら地域の方々と交流できたのでよかった。地域の方に「学生と意見交換できてよかった」と言ってもらえてうれしかった。」（現代福祉学部 2 年　石川綺音）

オープニングにも登壇

地域の方と交流しました

⑥　-相原 11 地区協議会大学連携事業-　第 4 回地域交流会「竹カフェ」

日時：2018 年 6 月 23 日（土）14：00～16：00
場所：多摩キャンパス EGG DOME 2 階　Slow World Café

第4回 竹カフェのご案内

概要：

１．内容

日頃お世話になっている相原地域の方々をお招きし、「相原」の魅力について語り合った。今回は地域と学生のコミュニケーション、そして「居場所づくり」をテーマにし、地域の方々に居場所を提供している団体「スターキッズ」と、「スターキッズ」でカフェ企画を実施している地域系サークル「ふなで」の方々にインタビューを行った。また、参加者全員に「自分にとっての居場所とは」というテーマで、それぞれにとっての「居場所」を発表してもらった。

２．参加者数

13 名

３．背景・目的

・地域の方々との交流を深める。
・相原地域の魅力を改めて発見し、それをどのように発信し、他団体と連携していくかについて考える。

４．参加者の感想

「自分は地元で生まれてこの地方で育ってきて生活をしてきたが、実際地域の人と話すという機会は１度も無かった。今回居場所ということがテーマであったが、地域の人々と地域について話すことは刺激的であり、まさに貴重な居場所を体験できた。次回も参加したい。」（現代福祉学部１年　坂本真悟）

「企画から関わらせていただき、とてもやりがいがありました。企画の段階ではテーマが決まらずに詰まった場面もありましたが、先輩方と一緒に考える機会は有意義でした。本番では司会を担当させていただき、グループ内の方から『次回来た時の成長ぶりを見るのが楽しみ！』と言っていただけたことがうれしく、励みになりました。改めて、地域の方と交流することのできる素晴らしいイベントだと思いました。」（社会学部１年　吉井妙英）

「普段、なかなかこんなにしっかり地域住民の方と交流する機会がないため、とても良い機会だった。また、その方たちがどういった活動をされているのかも知れたのでいい経験になった。」（社会学部１年　浅沼和崇）

「入学して２か月しか経っていなくて、こちらの地域の方々と関わることがなかったので、今回たくさんの地元の方々とお話しする機会があって嬉しかったです。また地域で行われている様々な活動を知るきっかけになって良かったです。」（社会学部１年　吉田佳穂）

「前回同様たくさんの相原地区（町田市）の方に来ていただけたのがうれしかった。自己紹介から、初対面の方もいらっしゃったにも関わらず、各グループの雰囲気が良かった。内容が住民の方にも伝わりやすかったのが今回の雰囲気につながったのではないかと思う。課題としては、居場所をテーマとした回だったが、グループで居場所について語り合ったり、学生が考える居場所を伝えられる時間が少なかったので、次回はテーマに沿った話し合いがもっとできればより有意義な時間を過ごしていただけるのではと思う。」（現代福祉学部３年　千田佳奈）

「お足元の悪い中、たくさんの方にご参加いただき、とても嬉しかったです。私にとって、改めて地域と関わることについて考えるきっかけになりました。今回頂いた意見や感想をもとに、また次回に向けて色んな視点で取り組んでいきたいと思います。スターキッズの武者さん、ふなでの皆さん、そしてご来場くださった皆さま、ありがとうございました。」（現代福祉学部２年　橋本空）

「今回の竹カフェは、地域の皆様のご参加が多く、とても嬉しかったです。本番を迎えるまで、不安でいっぱいでしたが、無事に終えられることができ、良かったです。来てくださった地域の方、初めて参加してくれた新入生からも『良かった』や『楽しかった』という声を頂けたので嬉しかったです。今回頂いた意見をしっかり受け止め、次回へ向けて頑張りたいです。」（現代福祉学部３年　鈴木琴音）

学生スタッフによる司会進行

地域サークル「ふなで」の皆さんによる活動報告

スターキッズの代表の方にお話を伺いました

学生を含め 37 名が参加しました

⑦　ヴィラ町田傾聴ボランティア＆Voice of Winds 演奏会

日時：2018 年 6 月 30 日（土）14：00～16：00
場所：介護老人福祉施設ヴィラ町田

概要：

１．内容

介護老人福祉施設「ヴィラ町田」で吹奏楽サークル「Voice of Winds」のメンバー21 名による演奏会と、学生ボランティア 5 名による傾聴ボランティアを行った。

２．参加者数

26 名

３．背景・目的

・介護老人福祉施設でのボランティアを体験し、関心を深めてもらう。
・自身の特技をいかしたボランティア活動を行う。

４．参加者の感想

「私は、カメラ係とイスの運搬、利用者様の移動のお手伝い、少し傾聴をさせていただきました。傾聴が思ったよりも難しくて、話題を探すのが大変でした。さまざまな高齢者の方と接する機会はめったにないので貴重な体験ができてよかったです。次回はもう少し気を利かせて動けるようにしたいです。」（現代福祉学部 1 年　古沢公実）

「他団体と協力してボランティアをするのは初めてだったので、良い経験になりました。次もあったらやりたいと思いました。」（現代福祉学部 1 年　菊地映梨香）

Voice of Winds による演奏会

全 4 曲を披露しました

⑧　堺市民センター祭り

日時：2018 年 6 月 30 日（土）-7 月 1 日（日）　10：00〜16：00
場所：堺市民センター

概要：

1．内容

相原駅近くにある堺市民センターで開催された「第 33 回堺市民センターまつり」にて、熊本支援を広める活動を地域の方に知ってもらう為、ゆめ工房さんとのコラボ商品「益城町を応援しなくっ茶！クッキー」の販売を行った。

2．参加者数

12 名

3．背景・目的

・地域に密着したボランティア活動を行う。
・市民、行政、地域との交流をはかる。

4．参加者の感想

「地域の方と触れ合って、お話をしたりクッキーの販売やゆめ工房さんのパウンドケーキなどの販売を通じて色々な方と交流が出来てとても良かった。また参加したい。」（社会学部 1 年　浅沼和崇）

「最初はなかなかクッキーが売れなくて不安だったが、小学生が友達に広めてくれたりして完売できたので良かった。ゆめ工房さんの販売のお手伝いをできたのがとても楽しかった（こちらも完売できて嬉しかった!!）。」（現代福祉学部 1 年　渡邉萌香）

「初めてチーム熊本を飛び出してのボランティアでしたが、地域の方々との交流ができ、良い経験になりました。これからの活動に活かしていけたらと思います。」（経済学部 1 年　石井彰悟）

「全員で協力して 1 時前に完売させることができたので良かったです。熊本での支援に繋がりますと言ったら、ほとんどの人が買って下さったので、地域の方々の温かさを感じることができました。ゆめ工房さんのお手伝いをしたことで、いろいろな方々とお話しする機会があったので、来て良かったと思いました。来年も参加できるといいです。」（社会学部 1 年　吉田佳穂）

試食を提供するなど工夫をこらして販売

2 日間で無事完売しました

⑨　町田市立ゆくのき学園大戸小学校児童来訪

日時：2018年7月6日（金）11：00〜12：30
場所：多摩キャンパス　EGG DOME 2階　ボランティアセンター

概要：

1. 内容

ゆくのき学園大戸小学校の児童ら5名が、「まちをたんけん　大はっけん」という授業の一環で法政大学に来訪。ボランティアセンターにて学生スタッフが概要説明を行い、質問などに対応した後、キャンパス内の各所を案内した。

2．参加者数

1名

3．背景・目的

・児童らの学習の手助けをする。
・児童らに、ゆくのき学園と法政大学のつながりを知ってもらう。

4．参加者の感想

「小学生を相手に法政大学について説明するのは正直大変でした。活動を通して、難しい内容や言葉をどのように噛み砕いて説明すればいいのかと相手の立場に立つことの大切さを再確認できました。今後のボランティアにも活かしていきたいと思います。」（経済学部1年　小森滉太）

学生スタッフが子どもたちの質問に答えました

キャンパス内を案内しました

⑩　ヴィラ町田夏祭りボランティア

日時：2018年8月5日（日）　11：00〜15：00
場所：介護老人福祉施設ヴィラ町田

概要：

1．内容

介護老人福祉施設ヴィラ町田にて開催される夏祭りの運営を支援した。会場の設営や出店の運営補助を行い、利用者や地域の方と交流した。

2．参加者数

14名

3．背景・目的

・異世代との交流を通じたボランティアの実践。
・ボランティア先として日頃お世話になっているヴィラ町田の活動を支援する。

4．参加者の感想

「暑い中たくさんの方が来てくださり、皆さますごく楽しそうで私も元気をいただくことができました。小さいお子さまも利用者さんも幅広い方が参加していて、良いイベントだなと感じました。参加して良かったです。」（現代福祉学部3年　鈴木琴音）

「この日はかなり暑かったが、担当者様のご好意により学生の殆どは室内でのボランティアとなった。私が担当したのはアイスやジュースの販売だったので、あまり利用者やその家族と長い時間接するという機会はなかった。しかし介護士の方の活躍を目の前で見ることが出来、貴重な経験となった。」（現代福祉学部1年　宮下なつ）

出店のお手伝いをしました

利用者の方やそのご家族でにぎわいました

⑪　熊本支援ボランティア第１次隊/第２次隊

日時：2018年8月20日（月）～ 8月23日（木）
　　2019年2月16日（土）～ 2月18日（月）
場所：熊本県上益城郡益城町

概要：

１．内容

Gakuvo（日本財団学生ボランティアセンター）協働プログラムの一環として、熊本県上益城郡益城町にて、学生スタッフ「チームたまモン」が支援活動を行った。

第１次隊（8月20日-23日）は、製茶工場を訪問し、熊本城見学。その後、木山仮設団地にて、流しそうめんとかき氷のイベントを企画・実施し、熊本保健科学大学の学生とともに子ども向けの工作を行った。また、高齢者と茶話会を行った。

第２次隊（2019年2月16日-18日）では、木山仮設団地にて熊本保健科学大学の学生とともに子供向け支援として、お団子とたこ焼き作り、スーパーボール作りを行った。また、益城町の社協さんや木山仮設団地の自治会長さんから現状のお話を伺った。

２．参加者数

日程	参加者数
8月20日（月）～ 8月23日（木）	6名
2月16日（土）～ 2月18日（月）	5名

３．背景・目的

・熊本地震被災地の支援。
・他大学との連携したボランティアの実践。

４．参加者の感想

「子どもたちが『あのときのお姉ちゃんでしょ！　覚えてる？』と声をかけてくれ、法政大学として、個人として益城町との絆ができてきていると実感することができ、とても嬉しかった。」（現代福祉学部３年　富所美羽）

「1日十数人の子どもが集まり、学生スタッフ５人で対処するのは中々のハードワークであった。しかし以前よりも子どもたちは落ち着いたように思われ、中には進んでお手伝いをしてくれる子もおり、また保護者のお力添えもあって企画はおおかた成功であった。子どもたちは普段できないような団子づくり等を通して常に楽しそうであったため、目的は果たせたと思う。

社協さんからは震災当初から今に至るまでのお話を伺った。今後、公営住宅への移行や仮設の集約が行われるとのことで、大きな変化があることが分かったが、どのようになるかは確実に把握することは難しいようだ。自治会長さんからは現在の西自治会についてのお話が主であった。自治会によって全く雰囲気が異なることや、高齢者の割合が高まる一方であることが印象的であった。」（経済学部１年　小森滉太）

熊本保健科学大学の皆さんと打合せ（一次隊）

子どもたちと流しそうめんをしました（一次隊）

子どもたちとかき氷を楽しみました（一次隊）

子どもたちとお団子作りをしました（二次隊）

外遊びを楽しみました（二次隊）

自治会長さんに益城町の現状を伺いました（二次隊）

⑫　宮城県被災地ボランティア～気仙沼でつながらNIGHT～

日時：2018年9月8日（土）～ 9月9日（日）
場所：宮城県気仙沼市

概要：

１．内容

気仙沼市内で開かれた第7回大谷海岸花火まつり支援をメインに、被災地域の見学やレクチャー、被災地復興の実情と気仙沼市の文化について学習した。

２．参加者数

8名

３．背景・目的

・被災地のニーズに基づいた活動を計画、実施。
・被災地への継続的な支援。

４．参加者の感想

「大谷海岸花火大会ボランティアに参加して3回目の参加です。1年生のころから参加する中で、今回現地に行き大谷海岸や気仙沼市内の風景が大きく変わっていたことに衝撃を受けました。気仙沼市街地に新しく建物が建てられると同時に大谷海岸も防潮堤の工事が進んでいました。花火大会実行委員長の三浦さんからは『大谷海岸地区の方々の中から様々な意見が出た中で、防潮堤を作ることになったが、地区の団結を象徴する花火大会は残したい』というお話を聞く中で、総勢1000人近くの地区の方などがお越しになる様子を見ました。
その中で、復興に努めながらも更に地域と気仙沼を盛り上げていく方々を支える支援ができたことにやりがいを感じました。来年もまた気仙沼の復興と大谷海岸の振興に地域ボランティアとして携わりたいと考えています。」
（現代福祉学部3年　恩田祐希）

「まずは率直に、今年でこの活動が4年目を迎え、ここまで活動を支えてきてくれた方々と受け継いでくれた後輩たちに感謝の気持ちでいっぱいになりました。個人的には、こんなにも継続することができるとは考えていなかったため、毎年変わっていくものや変わらないものを4年間かけて見たり感じたりすることができ、活動を継続することの重要性や継続したからこそ得られるものがあるという事を知りました。この活動は『大学生だから出来ること』を大きな軸と考え、始めた活動でした。瓦礫の撤去や支援物資の振り分けなどは、大人になってからでもできます。もしかしたら震災ボランティアにおいて一番必要とされることはこれらのことかもしれません。しかしこの大谷海岸花火大会ボランティアという地域のコミュニティに入り、一緒に楽しんだり、周りを見て臨機応変に行動できるのは、子どもでも大人でもない私たち『大学生』だからできることだと強く感じています。」（社会学部4年　武藤花織理）

会場設営

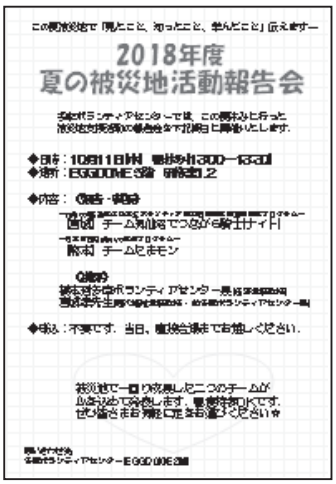
駐車場の誘導

現地の取材を受けました

充実した活動ができました

⑬　夏の被災地ボランティア活動報告会

日時：2018 年 10 月 11 日（木）　13：00〜13：30
場所：多摩キャンパス　EGG DOME 5 階　研修室 1.2


この夏被災地で「見たこと、知ったこと、学んだこと」伝えます！

2018年度
夏の被災地活動報告会

◆内容：

[熊本] チームたまモン

◆申込：不要です。当日、直接会場までお越しください。

概要：

１．内容

被災地支援をしている学生スタッフ「チーム気仙沼でつながら騎士」「チームたまモン」の２団体が、夏休み期間中の活動について、成果や今後の課題を含め報告を行い、先生方に講評を行っていただいた。

２．参加者数

21 名

３．背景・目的

・気仙沼、熊本それぞれの被災地支援活動について知る。
・意見交換や講評をふまえ、今後の活動にいかす。

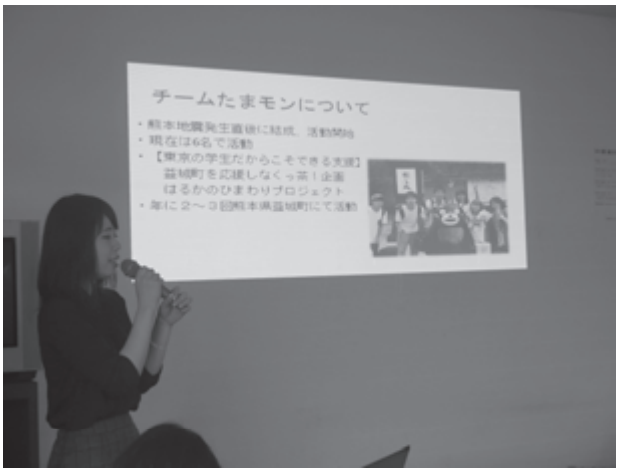
４．参加者の感想

「仮設住宅に住んでいる方々のストレスを発散することのできるとてもいい活動だなと思いました。また、仮設住宅から退去された方々の支援もお願いされたということで、とてもすばらしいなと思いました。」(現代福祉学部１年　古沢公実)

「発表姿勢が慣れている感じでとても良いと思いました。」（現代福祉学部１年　岡崎ひばり）

「活動の写真が多くあり、様子が分かりやすかったです。」（現代福祉学部３年　鈴木琴音）

「チーム気仙沼でつながら騎士」の報告



「チームたまモン」の報告

橋本多摩ボランティアセンター長による講評

現代福祉学部教授の宮城先生にもお話いただきました

⑭　第 71 回自主法政祭多摩地区

日時：2018 年 10 月 20 日（土）　9：00〜13：00
場所：多摩キャンパス　経済学部棟 3 階　321 教室

概要：

１．内容

多摩キャンパスの学園祭にて、学生スタッフ「チームたまモン」考案の、ゆめ工房（相原町）とお茶の富澤（益城町）コラボ「益城町を応援しなくっ茶！クッキー」の販売と、同チームが今年度実施した熊本県益城町での活動紹介パネル展示を行った。

２．参加者数

7 名

３．背景・目的

・学生が主導して、被災地と相原地域を結ぶ。
・熊本の状況を多くの人に知ってもらう。

４．参加者の感想

「学園祭での販売は屋内と屋外での移動販売と 2 つありました。屋内の販売では建物の 3 階で、人の出入りが芳しくありませんでしたが、その分来ていただいた人は私たちの活動に興味をもたれ、質問をして帰られる方ばかりでした。屋外での販売は不特定多数の方に『熊本県益城町』という名前を伝える事が出来たと思います。どちらの販売も私たちの活動において意義のあるものになりました。」（現代福祉学部 1 年　海老沢真由）

「大学生から地域の方まで幅広い世代に、活動について興味を持っていただくことができました。実際に地震の被害を受けた方のお話もたまたま聞くことができ、貴重な機会になりました。」（現代福祉学部 2 年　富所美羽）

経済学部棟 3 階にて販売

100 袋があっという間に完売しました

⑮　ひなた村子どもチャレンジフェスティバル作戦

日時：2018 年 10 月 21 日（日）　8：30〜16：30
場所：青少年施設ひなた村

概要：

１．内容

町田市制 60 周年を記念したイベント「町田市政 60 周年〇ごと大作戦 2018」の一つである「ひなた村子どもチャレンジフェスティバル作戦」に参加。メイン企画である「たまご落とし」の運営補助と、子どもを対象とした「しっぽとり」ゲームを学生スタッフ自ら考案、実施した。

２．参加者数

6 名

３．背景・目的

・本学と町田市のつながりを深める。
・子どもを対象としたイベントの企画、運営について体験する。

４．参加者の感想

「子どもたちの工作の見守り、しっぽとりゲーム運営を主にさせて頂きました。子どもたちの工夫した工作や、しっぽとりなどのイベントでの元気な姿を見て、私も元気になれたような気がします。参加している方が、楽しそうにしていて、私も楽しみながらボランティアに参加することができました。」（現代福祉学部 3 年　鈴木琴音）

「午前中は子ども達がたまご落としの機体をつくるのを見守っていました。親子で参加している家庭が多くて、こういう機会はとても貴重だと思いました。私達の企画したしっぽとりゲームも沢山の子ども達が参加してくれてよかったです。100 人くらいの人の前で話したことを含めて良い経験になりました。」（現代福祉学部 1 年　海老沢真由）

イベントブースのお手伝い

学生スタッフ企画の「しっぽとりゲーム」

⑯　第二清風園ハロウィンフェスティバル

日時：2018 年 10 月 28 日（日）　10：00〜15：00
場所：社会福祉法人賛育会第二清風園

概要：

１．内容

町田市にある複合型福祉施設、社会福祉法人賛育会第二清風園内にて、ハロウィン祭りのお手伝いをさせて頂いた。

参加学生は出店のお手伝いを行い、アカペラサークルの「はもるぷ」が合唱を披露した。

２．参加者数

15 名

３．背景・目的

・介護老人福祉施設でのボランティアを体験し、関心を深めてもらう。
・自身の特技をいかしたボランティア活動を行う。

４．参加者の感想

「ずっとボランティアに参加してみたかったので、出来て良かった。何か自分が誰かの助けに少しでもなっていたら、光栄です。今後もいろんなボランティアに参加したいと思います。今回は幅広い年齢層の方と交流が出来て、良い時間を過ごせました。」（経済学部２年　中山香澄）

「いろいろな人とボランティアを通して関われたり、新たな発見が出来たりしてとても楽しかったです。ぜひまた掲示板などで探して参加したいと思います。」（経済学部２年　相原佑美）

みんなで仮装をしました

「はもるぷ」による合唱

⑰　第 12 回市民協働フェスティバル　まちカフェ！

日時：2018 年 12 月 2 日（日）　10：00〜16：00
場所：町田市役所 2 階

概要：

1．内容

町田市を中心に活動する団体が一堂に会するイベントに参加。学生スタッフが行う熊本支援活動を地域の方に知ってもらう為、「益城町を応援しなくっ茶！クッキー」と「かぶせ茶プリン」の販売を行い、クッキー200 個、プリン 120 個を完売した。

また、町田市からの依頼で学生スタッフが子供向けワークショップを企画・運営した。

2．参加者数

12 名

3．背景・目的

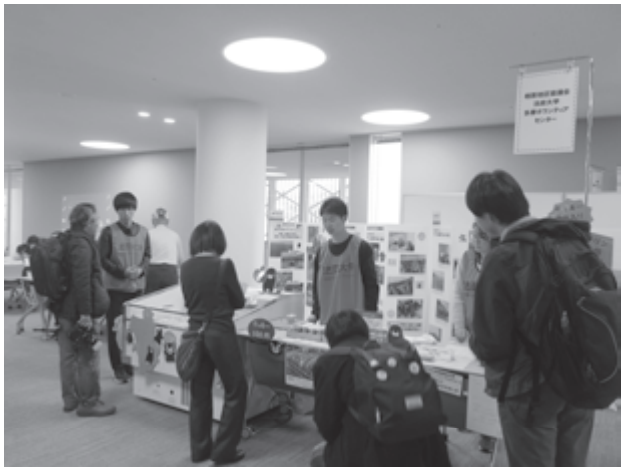
・地域に密着したボランティア活動を行う。
・市民、行政、地域との交流をはかる。

4．参加者の感想

「普段、小学生以下の子どもと接する機会がなく、コミュニケーションを取るのに非常に苦労した。だが、参加した子どもは皆楽しんでもらえたように思うので、達成感を得られた。」（社会学部 3 年　鈴木史哉）

「今回販売と親子向けワークショップの企画を行いましたが、ここまで幅広い世代の方とお話しする機会は大変貴重だと思います。2 つの企画がどうなるか不安な気持ちもありましたが、無事に終わって良かったです。」（現代福祉学部 2 年　橋本空）

「熊本産の茶葉を使ったクッキーとプリンの販売を行いました。販売を通して、熊本支援の一助となれたことを嬉しく思うと同時に、もっと熊本地震を思い出すきっかけづくりをしていきたいと思いました。」（経済学部 1 年　小森滉太）


応援しなくっ茶！クッキーとプリンの販売

子ども向けワークショップの企画・運営を行いました

⑱ －相原 11 地区協議会大学連携事業－　第 5 回地域交流会「竹カフェ」

日時：2018 年 12 月 8 日（土）13：30〜16：00
場所：多摩キャンパス EGG DOME 2 階　Slow World Café

第5回 竹カフェのご案内

概要：

1. 内容

日頃お世話になっている相原地域の方々をお招きし、「相原」の魅力について語り合った。第 5 回という節目を迎えた今回は、第 1 回から第 4 回までの振り返り企画を実施。メイン企画として経済の仕組みを疑似的に体験できるワークショップ「貿易ゲーム」を、相原の名産である竹を用いた相原バージョンで行った。

2. 参加者数

11 名

3. 背景・目的

・地域の方々との交流を深める。
・相原地域の魅力を改めて発見し、それをどのように発信し、他団体と連携していくかについて考える。

4. 参加者の感想

「初対面の方との交流で最初は緊張したが、楽しい時間を過ごすことが出来た。自己紹介などより、貿易ゲームで交流する方がすぐに親しめると思った。相原地域の方々のご理解、ご協力のもとで大学が成り立っているのだと実感した。」（社会学部 1 年　豊満祐希）

「自然と参加者の方と話ができるような場の空気感がすばらしかった。貿易ゲームの中に、よりほかの国と貿易をさせるようなシステムがあるとより面白かったかもしれないな、と思う。」（現代福祉学部 2 年　林菜々子）

「最初はしっかりと話せるかなと思いましたが、心配する間もなく、楽しい雰囲気になったのでとても良かったです。得るものが大きかったです。」（現代福祉学部 1 年　尾池厚輝）

5 回目の開催となりました

「貿易ゲーム」で盛り上がりました

⑲　学生ボランティア 2018 年度活動報告会

日時：2018 年 12 月 21 日（金）　15：35〜17：15
場所：多摩キャンパス　EGG DOME 5 階　研修室 1.2

HOSEI University

学生ボランティア 2018 年度活動報告会プログラム

概要:

1. 内容

多摩キャンパスではサークルやグループが多種多様なボランティア活動に取り組んでいる。報告会では、「地域にスマイルを届けよう活動助成金」採用団体を含む 6 団体が活動内容、学んだことについて報告を行った。

2. 参加者数

11 名

3. 背景・目的

・日頃の活動を通して学んだことを発表し、振り返りの場とする。
・各自の活動に対する評価と助言を受け、今後の活動にいかす。

4. 参加者の感想

「宮城出身なので、東京の学生の方が震災から 7 年以上たってもボランティアをしているというのが嬉しかった。」（社会学部 3 年　工藤幹也）

「2 か月に 1 回被災地訪問をされているということを聞き、強い思いがなければそれほどこまめに活動することは大変だと思うので、とても素晴らしいと思いました。」（社会学部 1 年　吉井妙英）

「友達が所属していて、2 か月に 1 回は被災地に行くなど、とても活動的なのが印象的だった。それだけでなく、今年から相原でも活動していくなど、離れたところからの支援や自分自身の防災意識を高めたりしていて、本当にすごいなあと思った。これからも無理なく頑張ってください。応援しています。」（現代福祉学部 1 年　宮下なつ）

学生による活動発表

終了後、参加者全員で記念撮影

⑳　東京医科大学八王子医療センター緊急医療救護所訓練

日時：2019年2月3日（日）　9：00〜12：00
場所：東京医科大学八王子医療センター

概要：

1．内容

八王子市にある東京医科大学八王子医療センター内にて緊急医療救護所訓練を行った。学生達はそれぞれ担当を任され、実際に大規模地震の災害が発生した事を想定し、要救護者に対するトリアージや応急処置を実際に体験した。

この救護訓練を通じて、八王子医療センターや他大学との連携を通して、緊急時の連携が取れる体制を協働する事ができた。

2．参加者数

10名

3．背景・目的

・災害に対する知識や技能を身に着ける。
・ボランティアを通じた他大学との交流をはかる。

4．参加者の感想

「今回初めて防災訓練に参加した。緊急を要する現場でいかに冷静に、適切に行動するかが、いかに大変で大切であるかを学ぶ良い機会であった。」（経済学部1年　小森滉太）

「地域の方々とともに、医療や防災に関する専門知識を持つプロのもとで訓練を受けることができ、非常に有意義な経験となった。これをもとに、実際に災害が発生した際には無理のない範囲で自分にできることをやり、現場に力添えできるよう心がけていきたい。」（現代福祉学部1年　渡邉萌香）

「もともと『トリアージ』には興味があったので、楽しい訓練でした。医師や看護師のきびきびした動きが印象的でした。緊急時にも生かせる訓練になったと思います。」（現代福祉学部1年　海老沢真由）

「私は今回の防災訓練において、傷病者の受付・誘導を担当しました。仕事内容自体は、傷病者を適切な場所まで案内するという単純なものでしたが、今回は震災時を想定した場合だったため、焦りや混乱が生じてしまい、的確に仕事をこなすことが難しくとても苦労しました。今回の経験を通して私は、改めて震災時の傷病者の対応の難しさを実感することができました。」（社会学部1年　太田知希）

念入りに打合せを行いました

担当ごとに分かれて訓練を行いました

㉑　第５回大学生ボランティア写真展＆イベント

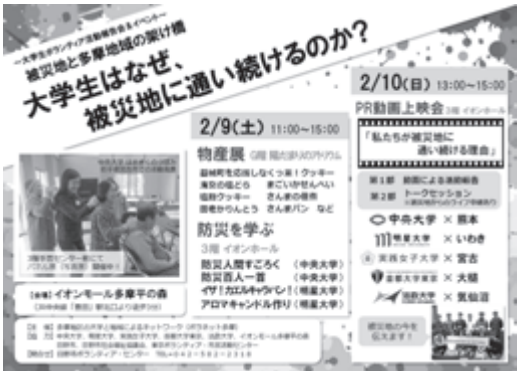
日時：2019年２月６日（水）～２月10日（日）
場所：イオンモール多摩平の森

概要：

１．内容

昨年同様、多摩地区５大学・行政・社会福祉協議会と合同で、学生の被災地ボランティアについてのパネル展示と活動報告を行った。

２月９日（土）には物産展と防災ワークショップ、２月10日（日）には活動報告会（動画上映会）が開催されたため、これらに参加し、多くの来場者や学生団体と交流した。



２．参加者数

日程	参加者数
２月９日（土）	５名
２月10日（日）	６名

３．背景・目的

・ボランティアを通じた他大学との交流。
・他大学の学生の活動を知り、自分たちの今後の活動にいかす。

４．参加者の感想

「今回の活動報告会においてトークセッションに出席しました。東日本大震災からまもなく８年になる中で、このイベントを通し私達の活動と現地の方の想いが多摩地域の皆様に伝わったら幸いです。ご協力して頂いた関係者の方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。」（現代福祉学部３年　恩田祐希）

「１年生が中心で構成された私たちのチームにとって、他大学の先輩方の『被災地で活動を続ける意義』についてのお話は、新しい学びとなっただけでなく、モチベーションの向上にも繋がったと実感しています。」（社会学部１年　児玉務）

「物産展での販売は建物の出入口という場所の為か沢山の人が前を通りましたが、それを目当てで来ている方は少なく、関心を持っていただくことの難しさを感じました。ですが、同じく物産展を担当した中央大学さんと協力することも出来、いつもと違う販売になりました。」（現代福祉学部１年　海老沢真由）

5大学学生による活動パネル展示

益城町を応援しなくっ茶！クッキーを販売しました

被災地で活動する学生たちの報告会

良い交流の場となりました

㉒　たまぴよ　～つくろう！！ひなまつり～

日時：2019年3月3日（日）10：00～11：30
場所：子どもセンターぱお

概要：

１．内容

町田市の子どもセンターぱおにて、子ども対象の工作企画を学生スタッフが考案。幼児17名と保護者11名が参加し、ひなまつりにちなんで紙コップや折り紙など、身近なものを使ったひな人形を制作した。

２．参加者数

5名

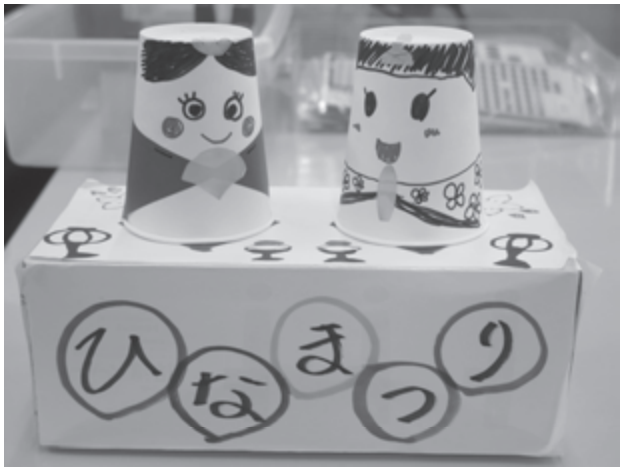
３．背景・目的

・こどもや親に大学生と触れ合い合う事で身近に感じてもらう。
・子どもを対象としたイベントの企画、運営について体験する。

４．参加者の感想

「多摩ボランティアセンター学生スタッフは、今後も、子どもたちを対象にしたボランティア企画を実施予定です。小さな子どもと触れ合うことができ、とても楽しい時間だった。子どもの年齢により必要な対応が違うことを改めて感じたので、今後、同様の活動をする際の参考にしていきたい。」（現代福祉学部１年　渡邉萌香）

「この日は雨だったので多くても５人くらい参加してくださる方がいれば良い方かな、と思った。しかし実際は10人ほど来て下さったのでやった甲斐を感じられ嬉しかった。混雑時は人手不足のように感じたので次は子ども企画のメンバー以外にも協力してもらったほうが良いだろう。ぱおの職員さんからもこれからも是非一緒にやっていただきたいと言っていただけたので、今後も頑張っていきたい。」（現代福祉学部１年　宮下なつ）



紙コップでひな人形を作りました

たくさんの方にご参加いただきました

㉓　あいはらほうとう＆コンサート

日時：2019年3月8日（金）12：00〜16：00
場所：大地沢青少年センター3F

概要：

1．内容

あいはら住民福祉協議会主催の行事運営を支援した。

受付や案内、ほうとうの配膳や片付けなどのお手伝いをし、地域の方々と交流を深めた。

2．参加者数

4名

3．背景・目的

・相原地域の方々との交流を深める。
・地域の交流行事の運営補助を行う。

4．参加者の感想

「美味しいほうとうを食べながらご来場の皆さんが楽しんでいる様子が伝わってきて、私もイベントのお手伝いができてよかったなと感じました。また来年もぜひ参加したいです。」（現代福祉学部2年　橋本空）

参加者の皆さんとほうとうを頂きました

津軽三味線やお琴、オカリナの演奏を楽しみました

㉔ －相原 11 地区協議会大学連携事業－　第 6 回地域交流会「竹カフェ椿」

日時：2019 年 3 月 12 日（火）13：30〜15：30
場所：特別養護老人ホーム椿　5F

概要：

１．内容

認知症予防カフェ「カフェ椿」を開催している特別養護老人ホーム椿にて、第 6 回地域交流会を開催した。日頃お世話になっている相原地域の方々のほか、カフェ椿の利用者の方や、東京家政学院大学の方々をお招きし、「理想の最期の迎え方」をテーマにワークショップを行った。

２．参加者数

10 名

３．背景・目的

・地域の方々との交流を深める。
・相原地区で活動している団体とコラボする事でお互いの活動を知り、人と人との出会いや繋がりの場を作る。

４．参加者の感想

「今回はカフェ椿とのコラボということで初めての試みに緊張していましたが、たくさんの方にご来場いただき、また皆様に温かい声をかけていただき本当に嬉しかったです。グループワークもコラボならではのテーマで楽しめたのではないかと思います。今回の課題はまた次回に生かし、来年度もご来場の皆様とのつながりを大切にしながら竹カフェの企画に取り組んでいきたいと思います。」（現代福祉学部 2 年　橋本空）

「初めて椿カフェとコラボしましたが、いつものようにたくさん企画をせず、フリートークを中心に行ったので、初めての方でもリラックスしていつものように参加できていました。次回も楽しみにしてるよと言っていただけたり、新たな出会いがあったりして、とても有意義な時間でした。」（現代福祉学部 3 年　千田佳奈）

「『理想の最期の迎え方』という普段扱いづらそうなテーマでしたが、世代間、男女別などで様々な意見を聞くことができ、参考になりました。これからの生き方について考えるきっかけになるイベントでした。」（社会学部 1 年　吉井妙英）

「今日来てくださった高齢者の方々は年を取るということを恐れていないなと感じる話しぶりだった。これからの人生を考えていくうえで貴重な話を聞けた。」（社会学部 1 年　豊満祐希）

今回はカフェ椿さんで開催

来場者 58 名で大盛況でした

㉕　学生活動報告会【ガクマチ EXPO】

日時：2019 年 3 月 20 日（水）　13：00〜16：00
場所：町田市生涯学習センター7F　ホール

概要：

１．内容

「〜あなたの一歩が地域（マチ）をつなげる〜)」をテーマに、町田・相模原で活動する大学の学生団体が、スライドを用いた活動報告とポスターブースセッション、ワークショップを行った。

本学学生スタッフ４名を含め、８団体が参加した。

２．参加者数

４名

３．背景・目的

・ボランティアを通じた他大学との交流。
・相原地域で行ってきた活動を学外に向けて発信する。

４．参加者の感想

「パネルディスカッションではパネラーをさせていただき、適度な緊張感のなか自分の思いを伝えられたと思います。ポスターブースセッションでも多くの方にボラセンのブースに来ていただき、お話をすることが出来ました。このつながりを絶やさぬよう、今後も頑張っていきたいと思います。」（現代福祉学部１年　海老沢真由）

「今回はパネルディスカッションで司会をさせていただきました。リアルタイムで客席から質問が来るという仕組みのため、司会原稿はなく臨機応変に対応しなければならないというのがとても大変でした。しかし、そんな大変な仕事をなんとかやりきったことで自分の自信に繋がりました。貴重な体験となりました。」（現代福祉学部１年　宮下なつ）

ステージでの活動報告

参加団体と交流を深めました

㉖　ゆめ工房まつり

日時：2019 年 3 月 23 日（土）　10：00〜15：00
場所：町田ゆめ工房

概要：

１．内容

「益城町を応援しなくっ茶！クッキー」の製造でお世話になっていた町田ゆめ工房さんの主催する「ゆめ工房まつり」の運営補助を行った。

参加学生は模擬店の手伝いや利用者の方の見守りを行い、地域の方々と交流した。

２．参加者数

２名

３．背景・目的

・地域の方との交流を深める。
・地域の交流行事の運営補助を行う。

４．参加者の感想

「ゆめ工房さんの玄関先で、野菜販売のお手伝いが主な活動でした。あいにくの天気でしたが沢山の来場者があり、野菜も売り切れ、良かったです。ゆめ工房さんには益城町を応援しなくっ茶！クッキーでお世話になっているので、少しでも役に立つことが出来、嬉しかったです。」（現代福祉学部１年　海老沢真由）

㉗　まちだ〇ごと大作戦−竹あかりの街あいはら−

日時：2019 年 3 月 30 日（土）　18：30〜19：00
場所：相原駅西口駅前広場

概要：

１．内容

相原駅西口駅前広場に、法政大学・東京家政学院大学・東京造形大学・多摩美術大学とともに制作した竹灯籠を展示し、点灯式では司会を担当し、学生代表としての挨拶も行われた。

２．参加者数

6 名

３．背景・目的

・地域の方との交流を深める。
・地域に密着したボランティア活動を行う。

４．参加者の感想

「当日はあいにくの雨でしたが、雨にもかかわらず多くの地域の方が点灯式に来てくださり、とても嬉しかったです。11 月の会議から参加させていただいたこのイベントが、地域の方と一緒に無事に当日を迎えられ、竹あかりが点灯した時は、参加させてもらえてよかったなと心から思いました。地域の方に声をかけていただき、一緒にイベントを作り上げられたことがとても楽しく、今後も活動していきたいと思いました。」（現代福祉学部 3 年　鈴木琴音）

「私も 2 本ほど竹灯籠を作成させていただきましたが、竹は想像以上に分厚くドリルで穴を開けるのも大変でした。それを見かねた地域の方が手伝ってくださったのですが、私の何倍ものスピードで穴を開けてくださってとても感動しました。いつもお世話になっている地域の方をますます尊敬するような素敵なイベントでした。」（現代福祉学部 1 年　宮下なつ）

地域の方と作成しました

とてもいい経験になりました